

令和七年 秋の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

日本憲政史上初の女性内閣総理大臣が誕生しました。まさに「ガラスの天井を打ち破った」と言えます。しかし、感慨にふけっている暇ありません。日本は問題山積の状態だからです。そんな諸問題の一つに少子化があります。今回とある女子大学が共学化に踏み切るという新聞記事に着想を得て中学生向けの課題作りに取り掛かりましたが、調べれば調べるほど少子化の深刻さを思い知らされた次第です。学習塾にとっても大変厳しい状況ですが、今後も保護者様や生徒の皆さんのために尽力してまいります。

さて、ここからは受賞作品の紹介です。今回も小学生には読書感想文、中学生には課題作文に取り組んでもらいました。選考の結果、小学生の部では金賞作品一つ、銀賞作品一つ、特別賞作品一つが、中学生の部では金賞作品二つ、銀賞作品四つが選出されています。まずは小学生の部です。金賞受賞作品も銀賞受賞作品も物語の中で描かれていることを「自分ごと化」して学びを得ている点が評価されました。二つの作品の差は僅差だったことを申し添えておきます。また、特別賞受賞作品は中学生向けの課題作文に挑戦した小学生の作文です。論理構成もしっかりしていて中学生の作品に混ぜても遜色ない出来栄えだったことが評価されました。

続けて中学生の部です。一つ目の金賞作品では、共学化推進に賛同しつつも男女を教室やフロアで分けた学校をつくるのはどうかといった具体的な提案がありました。また、一方の意見だけを反映

させるのではなく、互いが歩み寄って合意形成を図るべきという主張にも感銘を受けました。もう一つの金賞作品は、異性との議論に参加して自身の考え方の幅が広がった経験を述べたうえで、性別だけでなく年齢や人種の異なる人を理解することに努めて視野を広げたい、そして、相手を傷つけないような発言を心がけたいと結んでいたのが秀逸でした。

一方で、受賞を逃した作品に目を通す中で気づいたことがあります。小学生の読書感想文では、物語のエピソードと自分自身の体験談に微妙なズレを感じるものがありました。感想文にも読み手がいることを念頭に置き、その共感を引き出せるようなものを目指して欲しいです。また、中学生向けの課題作文では、資料の読み取りを一切行わずに少子化について自分の調べたことや考えたことを主張しているだけという作品がありました。課題作文では「条件を守って書く」を徹底しなければなりません。最近話題になっている生成AIを用いればもっともらしいことを書くことはできますが、いくら良い内容であっても条件を満たしていなければ評価の対象にならないということをお肝に銘じてください。

最後になりますが、中学生向けの課題作文には講師も挑戦しています。講師作品の中で皆さんのお手本となりそうなものを掲載してあります。何度もお伝えしていますが、「学ぶ」の語源は「真似ぶ」です。ぜひ受賞作品や講師優秀作品に目を通し、共感できるものを取り入れてくれることを願っています。